

霞が関地区Aid Station整備計画

2010年09月23日

財団法人 高度映像情報センター(AVCC)
霞が関ナレッジスクエア担当理事 久保田了司

霞が関地区”帰宅困難者”数の推定

- 霞が関1丁目/2丁目/3丁目面積：0.48m²
- 住民：5世帯9人 (住民基本台帳'09年7月1日現在)
- 昼間人口(=在勤者)：59,210人 ('05年国勢調査より)
- 最寄駅：霞ヶ関(1日平均乗降客数 130,748人 ('07年度))
- 最寄駅：虎ノ門*(1日平均乗降客数 104,929人 ('07年度))
 - *虎ノ門乗降客数の1/3が霞が関地区と推定
- 最寄駅：桜田門(1日平均乗降客数 12,083人 ('06年度))
- 帰宅困難者(住民・在勤者除く)約1万人が想定される
 乗降客数(霞が関+ 虎ノ門/3+ 桜田門)/2-(住民+在勤者)
 = 29,685人/日
 滞在時間帯9:00-12:00/12:00-15:00/15:00-18:00で3等分し
 ≒ 10,000人/時 (夜間休日除く)

霞が関地区帰宅困難者避難場所(現状)

□ 霞が関は夜間過疎地区です、学校・公民館・図書館・博物館等社会インフラ乏しく、避難場所指定がありません。

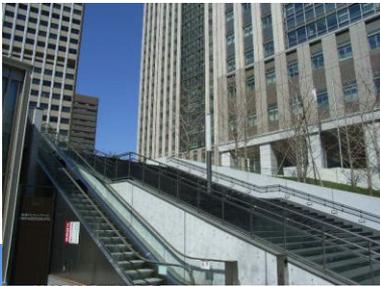
□ 帰宅困難者避難場所として
 (A)北の丸公園
 (B)皇居東御苑
 (C)皇居外苑
 (D)日比谷公園
 が指定されていますが
実働施設/スタッフが不明確
電気/情報等インフラの如何
屋外での寒さ/荒天対策
 等機能と運営面での課題多い。



霞が関コモンゲート(霞テラス)は 帰宅困難者避難場所として有用な空間です

- 霞が関コモンゲートは、桜田通りと外堀通りが交差する虎ノ門交差点に隣接、徒歩帰宅者の要所に位置し、セキュリティの無い公共広場となっており、多数の帰宅困難者収容が可能です。
- 一階が駐車場/道路、霞テラスはその上二階に広がり、一階は屋根のある大きなスペースとして寒さ/荒天対策に大変有用です。

2F霞テラスへの階段



2F霞テラス



1F小広場



霞が関ナレッジスクエア(略称KK2)は有事に 帰宅支援ステーション(Aid Station)として活動します

□ KK2は、文科省/金融庁/会計検査院のある「霞が関コモンゲート」にあり、税に依らない「新しい公共」を実践する「公民館」として様々な事業を進めています。有事にはAid Stationとして活動し社会に貢献します。

□ KK2は、インターネット・通信衛星(CS)等強力なネットワークインフラとICT利活用によるコミュニケーション機能を活かした、Aid Stationとして活動します。



KK2 Aid Station 帰宅支援サービス(案)

□安否確認支援サービス

帰宅困難者は、まず、家族の安否確認が最優先の行動となります。携帯電話/固定電話は、輻輳・断線・停波・通信規制などにより、殆ど機能しなくなります。災害時優先電話やインターネットを活かした安否確認を支援します。

□携帯電話充電サービス

中越地震(H16.10.23/M6.8)中越沖地震(H19.7.16/M6.8)では、携帯電話通話機能が輻輳し通信規制が掛けられたが、パケット通信については最大7.6倍の通信量が発生しても、通信規制は実施されなかった。メールやホームページ閲覧等利用できた。帰宅困難者の携帯電話の電源確保を支援する携帯電話充電ステーション機能を用意する。

KK2 Aid Station 帰宅支援サービス(案)

□パソコンの利用提供

既設の会員向けセカンドオフィスサービスを会員以外にも開放、無線LANもID/PWを公開し、帰宅困難者に提供する

□災害時の情報提供

帰宅困難者には、公共交通機関の運行状況情報が重要です。KK2ではNHK/民放/CATV等受信環境を整備、いち早く複数局情報を取得し、大型ディスプレイで提示します。

□トイレの提供・一時休息所の提供

電気・水道のライフライン関係が正常に機能している前提で、KK2のトイレ提供や休憩所としての場の提供を行います。ライフライン不具合時のトイレ提供等については、方法・運用・コストを総合判断し整備を行います。